

Vol.62

Vol.62 (2015年 春号)

PMI 日本支部 ニュースレター



Best Practice and Competence / PM 事例・知識	3
Activities / 支部活動	7
Stakeholders / 法人スポンサー紹介	11
PM Calendar / PM カレンダー	13
Fact Database / データベース	15
Editor's Note / 編集後記	19

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆他国カンファレンス 3
- ・PMのISO標準化の動向 その4 戦略PMオフィス 田島 彰二

Activities / 支部活動 7

- ・PMI日本フォーラム2015 PMI日本支部 事務局
- ・2015年度更新会員・新規入会会員キャンペーン PMI日本支部 事務局
- ・オンライン・セミナー PMI日本支部 事務局

Stakeholders/ 法人スポンサー紹介 11

- ・Innova Solutions 株式会社

PM Calendar / PM カレンダー 13

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 15

Editor's Note / 編集後記 19

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

他国カンファレンス

PMのISO標準化の動向 その4

戦略PMオフィス 田島 彰二

■はじめに

プロジェクトマネジメントに関するISO標準化の動向について、久しぶりの投稿になりますので、以前のPMI日本支部ニューズレターのバックナンバーとその概要について、まずおさらいしておきます。

①ニューズレターVol.54 (2013年春号)

PMのISO化 (ISO21500) “最新動向のご紹介”

ISO21500の枠組み、このISO規格で影響を受け始めたPMBOK®のことで、ISO21500がどこで使われるのかについて簡単に紹介しました。

②ニューズレターVol.55 (2013年夏号)

PMのISO化 (ISO21500) “最新動向のご紹介 その2”

なぜ今PMをISO化するのか、について簡単に紹介しました。

③ニューズレターVol.58 (2014年春号)

PMのISO化 (ISO21500) “最新動向のご紹介 その3”

ISO21500発行後の各国の反応、ISOにおけるその他の標準化の動きを簡単に紹介しました。

第三稿から1年ほどたちましたが、その後今日までの最新動向について概要を紹介します。

■最新動向のまとめ

結論を簡潔に言えば、PMのISO標準化作業は、一部で見られた過激な意見 (PMのISO化標準は要らない、標準で縛られたくない) も実際に問題に発展することなく収まりました。つまり、本来あるべき、組織の目標実現のためにリスクを考慮した方向づけの上に、一連のまとまりのある活動で、徐々に戦略目標を達成するための一群の標準類を遅滞なく決めていこうとの認識で確実に動いています。

これまでの流れとしては、時系列的には以下の8つの大項

目を取り組まれてきました。

①2012年の秋にISO21500:2012として、組織目標実現のためのPMの枠組みとそのプロジェクトレベルのプロセス標準化のガイドラインが発行されました。

②この規格を受けて2012年の年末にPMIのPMBOK®第5版がステークホルダーマネジメントを取り込む形で発行されました。

③2012年の年末同時期に、プログラム標準、ポートフォリオ標準の第3版が、PMIとして三つの標準が整合する形で出版され、なおかつその記述の中では、ISOのPM類との整合も考えられ (一部記述) 始めました。

④3カ月ほど遅れて、組織成熟度モデル第3版が発行されました。これは、ポートフォリオ、プログラム、プロジェクト標準についてPMIとして整合させ、組織をPMの観点でランクアップする手法をその原動力 (組織イネーブラと記述) と共に追加表現されています。

⑤ISOのPM標準の作業チーム (PC236,TC268) は、実際には上記の時間軸より早い時期 (2011年夏) から、ポートフォリオ標準、全体を通じたガバナンス標準、プロジェクトマネジメント用語、少し時間をおいてからプログラム標準の作業を進めてきました。

⑥2015年末までには、ポートフォリオマネジメント標準が発行される見込みです。内容的には、ISO21500をベースに、戦略、ポートフォリオ決定、その最適化までを含みます。

⑦ガバナンス標準成立に関しては、まだ紆余曲折がありそうです。ガバナンスに関しては、従来のPMI標準に記述されているガバナンスはそれぞれのマネジメント階層 (ポートフォリオ、プログラム、プロジェクト等) の中でガバナンスを考慮していましたが、ISOの作業チームは組織全体で、PMに関するすべての階層 (ポートフォリオ、プログラムとプロジェクト) のガバナンスを串刺しにして検討

■PMのISO標準化の動向 その4

しているのが特徴です。そのために、コンセンサス作りに時間がかかるわけです。

⑧プログラムマネジメント標準に関しては、ポートフォリオ標準の方向づけができたところから遅れての作業開始で、現時点ではドラフト作成が始まったところです。

■ポートフォリオマネジメント標準 (ISO21502) の概要

今回は、上記⑥ ISOポートフォリオ・マネジメント (ISO21502) を紹介します。現時点では、公表済みのDIS21502をベースに説明します。

【組織とポートフォリオマネジメント】

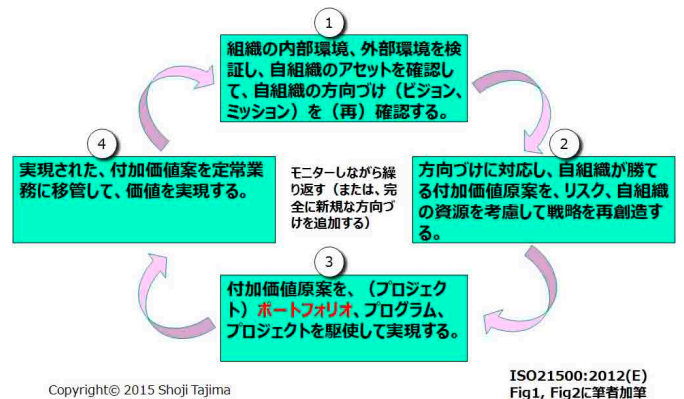
はじめに、PMを活用する組織におけるポートフォリオマネジメント活動とは、何かを考えてみます。

“組織に許されるリスク限度の中で、将来活動案（計画）をたて、それを適切な組織・部門に実行させ、適宜経過を確認し軌道修正しながら組織目標を効率的に実現させる”ことと認識しています。

その認識の下に、ISO21500:2012のFig-1, Fig-2に組織全体の活動を重ね、その中で（プロジェクト）ポートフォリオ、プログラムマネジメント、プロジェクトマネジメントを定常業務に取り込むところまでを図示してみると以下ようになります。

この中の、（プロジェクト）ポートフォリオが、今回注視するポイントです。ただし、図-1にありますように、外部環境（組織が置かれている市場、組織が目標を実現する市場、対抗組織の位置づけ、等）と内部環境（市場における組織の位置づけ、特徴、文化、差別化要素、リソース状況等）を十分アセスメントしてから、戦略（図-1では『付加価値原案』と表記）を再構築した後、ポートフォリオを作成することになります。

図-1 PMを考慮した組織運営の基本的考え方

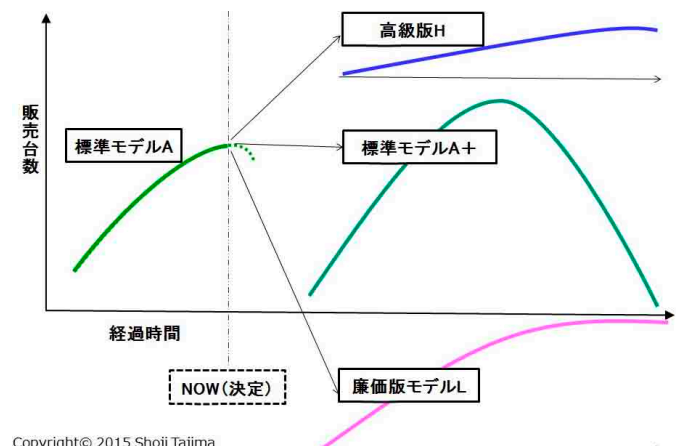


ポートフォリオを具体的な商品開発・販売の事例で説明すると次のようになります（図-2）。

標準モデルAを販売している現時点（NOW：決定）で、次の後継機商品である「A+」と「高級版H」、「廉価版L」の3つの選択肢の中から商品の追加・入れ替えを検討し始めたとします。この場合のように、そろそろ販売に陰りが見えそうな商品の製造・販売戦略を見直し、従来経験していない高級路線と、廉価路線の複数に分けて製造し、販売チャンネルを複数使ってビジネスを拡大しようとした場合に、ポートフォリオマネジメントの検討が必要となります。

この事業拡大の着想から、実際の戦略決定（例えば、廉価版Lの販売は止めて、高級版Hのみで、もっと販売台数を絞るというプログラムBに決定）の後に動き出し、それをある期間Watchして活動することがポートフォリオマネジメントの活動です。

図-2 ポートフォリオの事例（A ⇒ A+, H, Lの検討）



■PMのISO標準化の動向 その4

■ポートフォリオマネジメントがISO21502になるまでの経緯

既に記述してきたように、ISO21500:2012が発行されたとの発表があった時、我々（TC258メンバー）は南アフリカの首都プレトリアで、三回目の全体会合を行っていました。つまり、PMにとって初めての標準が正式ドキュメントになった瞬間は、ポートフォリオ、ガバナンスのWGとも込み入った議論をしている真っ最中だった訳です。標準化作成作業と、その結果であるISOドキュメント正式発表がこんなにも距離があるとは思っていませんでした。

標準化の流れは以下のようなものとなります。

表-1 ISO21502 標準化までの流れと今後の見込み
(TC258 WG1)

年月	会議	検討段階	摘要
2011.1	TMB(TC258)		委員会設置
2011.6	1. ワシントンDC (米国)		第一回総会 (3日間)
2012.2	2. パリ (フランス)		第二回総会 WG1設置
2012.9	3. プレトリア (南ア)	WD	第三回総会 打合せ
2013.3	SWG ベルリン (ドイツ)	CD	WG1の専門家会合 (中途半端)
2013.9	4. テルベリ(スウェーデン)	CD2	第4回総会 WG1落とし所まで
2014.3	SWG (WG1) ロンドン	DIS	DIS原案
2014.9	5. 京都		第五回総会打ち合せ (WG1無し)
2014.10	投票	DIS	DIS化Yes
2015.2	SWG ウィーン (WG1,2,3)	FDIS/ IS	DIS/FDIS/IS 作業
2015/2016 ?	IS発行予定	IS	発行予定

TMB; Technical Management Board DIS ; Draft International Standard
WD ; Working Draft FDIS ; Final DIS
CD ; Committee Draft IS ; International Standards

Copyright© 2015 Shoji Tajima

■ISO21502の概要

ISO21502は、以下の構成となっています。

題名；ポートフォリオ・マネジメントガイダンス
(Guidance on project and programme portfolio management)

1. 適用範囲 (Scope)

ポートフォリオマネジメントのガイダンスで、プロジェクト、プログラムマネジメントや、一般的なポートフォリオマネジメント（経済的なポートフォリオマネジメントは含まない）

2. 用語および定義 (Terms and definition)

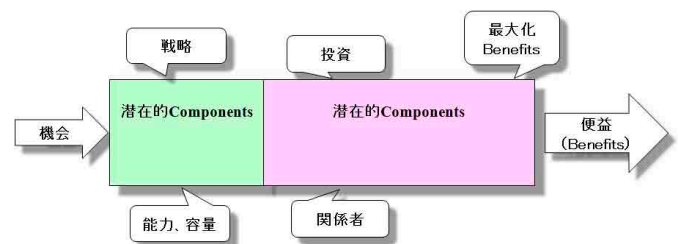
Portfolio, Portfolio component, Portfolio manager, Strategic alignmentの定義が定められています。

3. ポートフォリオマネジメントの原則

- ①組織戦略に合わせて適切なコンポーネントに投資する
- ②組織の能力と容量を最適化する
- ③投資のベネフィットを最大化する
- ④ステークホルダーの期待を識別しマネージする
- ⑤コンポーネントのポートフォリオ活動を可視化する

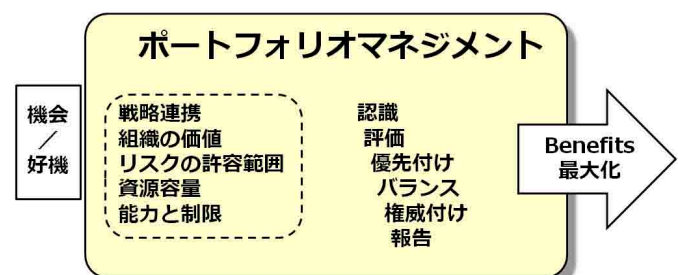
として、下図にポートフォリオマネジメントの全景（コンテキスト）が記述されています。

図-3 ポートフォリオマネジメントの全景・コンテキスト
(筆者訳)



また、ポートフォリオマネジメントの動きとしては、以下の説明があります。

図-4 ポートフォリオマネジメント (筆者訳)



■PMのISO標準化の動向 その4

4. ポートフォリオマネジメントの前提条件

(Prerequisites for portfolio management)

前提条件は、以下の9項目が挙げられています。

- ①投資効果の確認
- ②実施部門の優先順位付け
- ③ポートフォリオの種類
- ④分類と優先どの確認
- ⑤組織のプロセスとシステムの進め方の連携
- ⑥ポートフォリオの可視化
- ⑦ポートフォリオ実施のレポート
- ⑧ポートフォリオマネジメントの改善
- ⑨ポートフォリオガバナンス

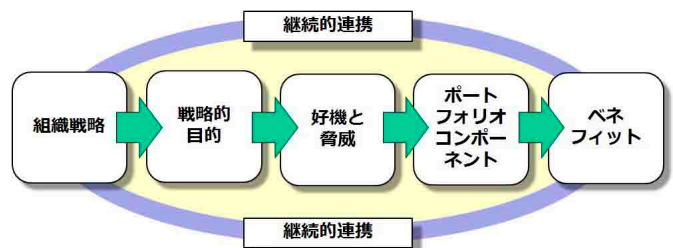
5. ポートフォリオの管理 (Managing Portfolios)

実際のポートフォリオマネジメントは、以下の6項目になると記述されています。特に、⑥の戦略目標との整合に関しては、**図-4**戦略の連携とベネフィットの継続的關係として、**図入り**で説明されています。

- ①ポートフォリオを定める
- ②実施すべき（仮）部門を定める
- ③ポートフォリオ実施の計画をたてる

- ④ポートフォリオ実施の部門の現状を確認し適任な部門を決定
- ⑤戦略目的にポートフォリオが合致するかの確認
- ⑥ポートフォリオ実施の評価と報告
- ⑦ポートフォリオのバランスと最適化

図-5 戦略の連携とベネフィットの継続的關係（筆者訳）
〔⑤・⑥ ポートフォリオ連携と戦略的目的の関連〕



Copyright© 2015 Shoji Tajima

今回はポートフォリオマネジメントのISO21502に関して説明しましたが、次回はガバナンスやプログラムマネジメント等の動きを解説させていただく予定です。

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2015

PMI日本支部 事務局

来る7月11日(土)、12日(日)の両日、東京都千代田区一ツ橋の学術総合センターにおいて『PMI日本フォーラム2015』を開催します。

一般参加募集開始は、G/W前とすべく準備を進めていますが、現時点での進捗状況を以下にお知らせします。

■ テーマ

今年のテーマは「リーダーシップ ～幾多の困難を乗り越えて成功に導くために～」。激しく変化する事業環境にタイムリーな自己変革を成し遂げる組織を牽引する「リーダー・シップ」にフォーカスします。



■ 基調・招待講演

基調講演(①・②)、招待講演(③~⑫)をいただく講師陣は下記の下記の12人の方々。今年も各界をリードするプロジェクトに携わっておられる方々に御登壇いただきます。

日 時		所 属	お名前 (敬称略)
7月11日(土)	午前	① 国土交通省 技監	徳山 日出男
		② PMI本部 理事	Ricardo Triana
	午後	③ 日揮(株) 執行役員	高橋 直夫
		④ 三重県桑名市 市長	伊藤 徳宇
		⑤ NPO法人ITS Japan 専務理事	天野 肇
		⑥ テレビ朝日「ワイド!スクランブル」キャスター	橋本 大二郎
7月12日(日)	午前	⑦ ポジティブサイコロジースクール 代表	久世 浩司
		⑧ Huawei Project Executive, Program Director	Max Sunhu
	午後	⑨ Consultant, Program Integration at Destination Resorts & Hotels	Gert Noordzij
		⑩ 三菱地所(株) 丸の内開発部	構 倫明
		⑪ プライスウォーターハウスクーパース株式会社 金融サービス事業部	中村 哲
		⑫ 三菱航空機(株) 経営企画部	岩佐 一志

■ 分科会トラック

部会および法人スポンサー・スタディー・グループの講演を中心に、フォーラム・スポンサー企業による講演を含め、今年は去年を上回る60セッションを予定しています。

■ アカデミック・トラック

アカデミック・トラックは二日間に拡大し、内外の教育機関から講演をいただきます。「大学改革とプログラムマネジメント」、「大学教育におけるプロジェクトマネジメントの標準化」など興味深いテーマがめじろ押しです。

■PMI日本フォーラム2015

■継続実施プログラム

昨年に引き続き以下の2点を実施し、より多くの講師・聴講者の方々に参加いただけるよう計画しています。

- 基調・招待以外のトラックを原則25分に設定し、講演枠を拡大します。
- 大阪市梅田駅近隣にリモート会場を確保し、12の基調・招待講演をリアルタイムで聴講いただきます。今年は講演会場に2台のカメラを持ち込み、プレゼン内容だけではなく講演中の講師の表情もお伝えする予定です。

■フォーラム・ボランティア

『PMI日本フォーラム』は、ボランティアの皆さま（日本支部会員）の支援により成り立っており、今年も6月頃に募集する予定です。この大きなイベントを我々と一緒に運営してみようという方々の応募をお待ちしています。

今年の『PMI日本フォーラム』も充実したものとすべく、皆さまと共に創りあげてまいりますので、よろしくお願い致します。

■ 2015年度更新会員・新規入会会員キャンペーン

PMI日本支部 事務局

■ キャンペーン内容

PMI日本支部ロゴ入り「特製ピンバッジ」と「特製ネックストラップ」を贈呈します。



特製ピンバッジ



特製ネックストラップ

■ 対象者

下記①か②に該当し、上記グッズの贈呈を希望される方を対象とします。

- ① 2015年1月1日～12月31日に、PMI日本支部新規会員としてご登録いただいた方
- ② 2015年1月1日～12月31日に、PMI日本支部会員の更新登録を完了された方

■ お申込み

- 上記①か②に該当する方全員に対して、事務局からキャンペーンのご案内メールを（PMI本部Webサイトで登録されたアドレス宛てに）差し上げます。
- 贈呈を希望される方は、ご案内メールに記された要領にそって手続きをお願いします。
- 手続きを完了された方には、順次「特製ピンバッジ」と「特製ネックストラップ」を発送します。

■ 備考

- 事務局ではPMI本部からの月次情報を基に新規入会・更新を把握しています。したがって、そのタイミングによっては、事務局からお送りするご案内メールが届くまで2カ月程度を要する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 品物は長形封筒に入れて（郵便ポストに入る大きさで）発送させていただきます。

■ オンライン・セミナー

PMI日本支部 事務局

プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指すより多くの方に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けないスキルアップ手段と機会として、2013年からオンライン・セミナーをご提供中です。

■ 教材コンテンツ

提供コンテンツは、過去2年にわたる月例セミナーを中心に、固定カメラで実際のセミナー状況をビデオ撮影したものです。講師とスライドを同時に映したもののほか、講師がプレゼンするスライドのみを映したものがあります。

現在、以下の13種類のコンテンツをご用意しています。

- ①「人を動かすコミュニケーションの構造」（「2013年4月度 月例セミナー」より）
- ②「プロジェクトを通じた人材戦略、人材育成の進め方、活かし方!!」（「2013年5月度 月例セミナー」より）
- ③「最大のリスク、ヒューマンエラーをどう防ぐか」（「2013年6月度 月例セミナー」より）
- ④「プロジェクトの成功の鍵を握る「関係性の質」（「2014年1月度 月例セミナー」より）
- ⑤「『自分で考える力』を磨いてPMとしての軸を持とう!」（「2014年2月度 月例セミナー」より）
- ⑥「マドンナのマネジメントのすすめ」（「2014年3月度 月例セミナー」より）
- ⑦「『マイルストーンとしてのPM』を考える」（「2014年4月度 月例セミナー」より）
- ⑧「お客様との一体感を作り出すプロジェクトマネジメント」（「2014年5月度 月例セミナー」より）
- ⑨「PMのためのプレゼンテーションの極意」（「2014年6月度 月例セミナー」より）
- ⑩「PMBOK®ガイド 第5版日本語版紹介セミナー」（2014年5月に実施したセミナーより）
- ⑪「再起力（レジリエンス）養成化セミナー～修羅場を乗り越える5本の柱～」
- ⑫「ステークホルダー・マネジメントに活かす『影響力の法則』」（「2014年12月度 月例セミナー」より）

- ⑬「『トヨタのPDCA』から学ぶ、個人も組織も成長させる方法」（「2015年1月度 月例セミナー」より）

■ 補助教材

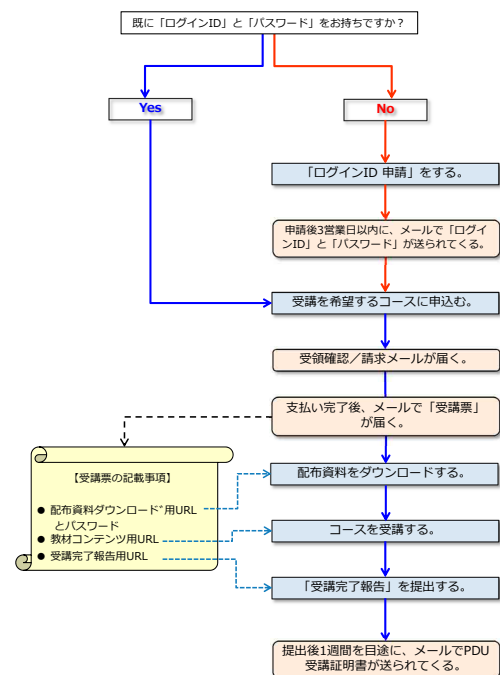
補助教材としてセミナー会場で当日配布されたものと同じ資料をpdf形式のソフトコピーで提供します。

■ PDU申請

同一オンライン・セミナーを複数回視聴した場合でも、PDUの申請は一度しかできません。また、当セミナーと同じ内容のセミナーを当日会場で既に受講している場合も、重複してPDUの申請をすることはできません。

■ 受講申請からPDU受講証明書の取得までの流れ

オンライン・セミナー受講申込みからPDU取得までの流れ



■ 詳細のご説明

詳しくは、支部ホームページ「[オンライン・セミナーを初めてご利用になる方へ](#)」をご参照ください。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ Innova Solutions 株式会社



2014年度よりPMI日本支部法人スポンサー

- 代表：マーク・ベレスフォード（Mr. Mark Beresford）
- 主要サービス：PMOサービス、プロジェクトマネジメント研修など
各種プロジェクトマネジメントに関する
コンサルティングの提供

プロジェクトマネジメント・コンサルティングのリーダーの一社としてビジネス強化や、プロジェクト、ポートフォリオの改善・強化を実現すべく、アジャイルPMOサービスを提供しています。

また、多数の適用経験を有するプロジェクトマネジメント・コンサルティング、研修・トレーニング、コーチング・サービスでお客様の課題解決をご支援します。

■ サービス一覧

サービス項目	内容
PMO サービス支援	お客様を取り巻く環境変化に追従してPMOの運用、展開、強化改善などをご支援します。
PM 成熟度改善支援	プロジェクトマネジメントに「かんする現状成熟度を評価し、実現可能な今後のロードマップを作成し、改善するための適用やトラッキングをご支援します。
プロジェクトに関するポートフォリオマネジメント支援	Innovaが推進するPPMで、プロジェクト群の最適なポートフォリオの作成支援や、お客様のストラテジーに沿いつつレベニューの最大化、リスクの最小化などの実現へ向けてご支援します。
人材活用マネジメント支援	人材マネジメント情報の入手や解析の支援をします。また、それらから人材の有効活用や人材育成の効率的な運営についてご支援します。
問題プロジェクトの評価・分析と回復支援	スコープ、リソースなどを含む問題を分析・評価し、問題プロジェクトの回復や損失回避、ミニマイズに収まるようご支援します。
Project Post Mortems	完了したプロジェクトの徹底的な分析を通して、ベストプラクティスの抽出や、次に向けての改善策をご支援します。
PM コーチング支援	PMコンピテンシーの醸成に向け、資格を有するコーチが直接対象社員を指導し、それによる結果、成功裏なプロジェクトの完了をご支援します。
ベンダー・マネジメント支援	取引パートナーとの契約書に関し、お客様の代わりに契約条項評価や作成支援をご提供します。これにより将来起こりうる問題を防ぐことが可能となります。
PM 人材育成支援	プロジェクト人材のスキル・ギャップの分析・評価やスキル強化、コンピテンシーの強化支援を通じてグローバルPM人材育成をご支援します。
アクション・ラーニング支援	プロジェクトに関わるメンバー・グループの能力向上や挑戦能力、プロジェクト収支への感度向上、長い目での学習習慣育成のご支援をします。

■ Innova Solutions 株式会社

Project Management Consulting

■ PMO Services & PM Training

As a leader in project management consulting, Innova Solutions is the key provider clients seek out when they are looking to implement business-enhancing, agile PMO services that improve project and portfolio performance.

Innova Solutions helps you improve project performance with proven project management consulting, training, and coaching approaches that have been implemented in hundreds of organizations.

■ Service List

Services	Description
PMO Services	We work with clients to deploy, operate, or enhance project management offices to adapt to changing circumstances.
PM Maturity Improvements	We help assess the current level of PM maturity, develop a realistic roadmap, and support the execution and tracking of improvements.
Project Portfolio Management	Our PPM process helps you select an optimal portfolio of projects - one that maximizes revenues, minimizes risk, and aligns with strategy.
Resource Management	We help you obtain, structure, and analyze your resource management information and practices to use talent effectively and streamline resource deployment.
Troubled Project Review and Recovery	Project failures can lead to big losses. Our analysis addresses common areas of concern including scope, resource availability, and project controls to turn around a troubled project quickly and avoid loss.
Project Post Mortems	We facilitate a thorough analysis of completed projects to identify existing best practices and recommend improvements for the future.
PM Coaching	Our certified coaches work closely with your people to build PM competency while ensuring successful execution of projects.
Vendor Management	Innova Solutions has the experience to work on your behalf with vendors to ensure terms and conditions are met, and to develop tools, processes and contracts to avoid future issues.
PM Talent Development	We design and deliver global PM talent development solutions tailored to address skill gaps and improve the competency of your project personnel, transforming the way people work.
Action Learning	Our facilitators help groups of project staff improve performance and overcome challenges, producing significant ROI and long term learning.

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連セミナー

【ホームページ公開済】

● 4月度 月例セミナー

もう振り回されない！クレーム発生時のハンドリング術
～ステークホルダーの怒りを信頼に変える秘訣～

- 日時：4月17日(金) 19:00～21:00
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 2PDU

● 組織成熟度研究会セミナー

組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3®)
～基礎知識 第3版の紹介～

- 日時：4月18日(土) 14:00～17:00
- 場所：PMI日本支部 セミナールーム
- 3PDU

● 5月度 月例セミナー

“デスマーチ”から脱出するプロジェクトマネジメント
～仕様変更“0”、メンタルストレス最小化のための最適化プロセス、ツールそしてマインド～

- 日時：5月15日(金) 19:00～21:00
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 2PDU

● 「ポートフォリオ、プログラム、リスク」マネジメント紹介セミナー

- 日時：全て土曜日 13:30～16:50

- ① 札幌 (6月 6日)
- ② 仙台 (6月13日)
- ③ 東京 (5月 9日)
- ④ 金沢 (5月30日)
- ⑤ 名古屋 (4月 4日)
- ⑥ 大阪 (4月25日)
- ⑦ 広島 (5月16日)
- ⑧ 福岡 (4月11日)
- ⑨ 東京 (7月25日) ※追加講演：予定

- 3PDU
- 会員、法人スポンサー社員 (2名/社) は無料

【予定】

● **アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎**

- 日時：5月29日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● **法人スポンサー連絡会**

- 日時：6月17日(水) 14:30～18:30
- 場所：三菱総合研究所 本社
- 3PDU

● **PMI Japan Festa 2015**

- 日時：2015年11月7日(土)・8日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館
藤原洋記念ホール

● **月例セミナー**

- 日時：6月12日(金) 19:00～21:00
- 9月 4日(金) //
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 2PDU

● **2015年度 PMI日本フォーラム2015**

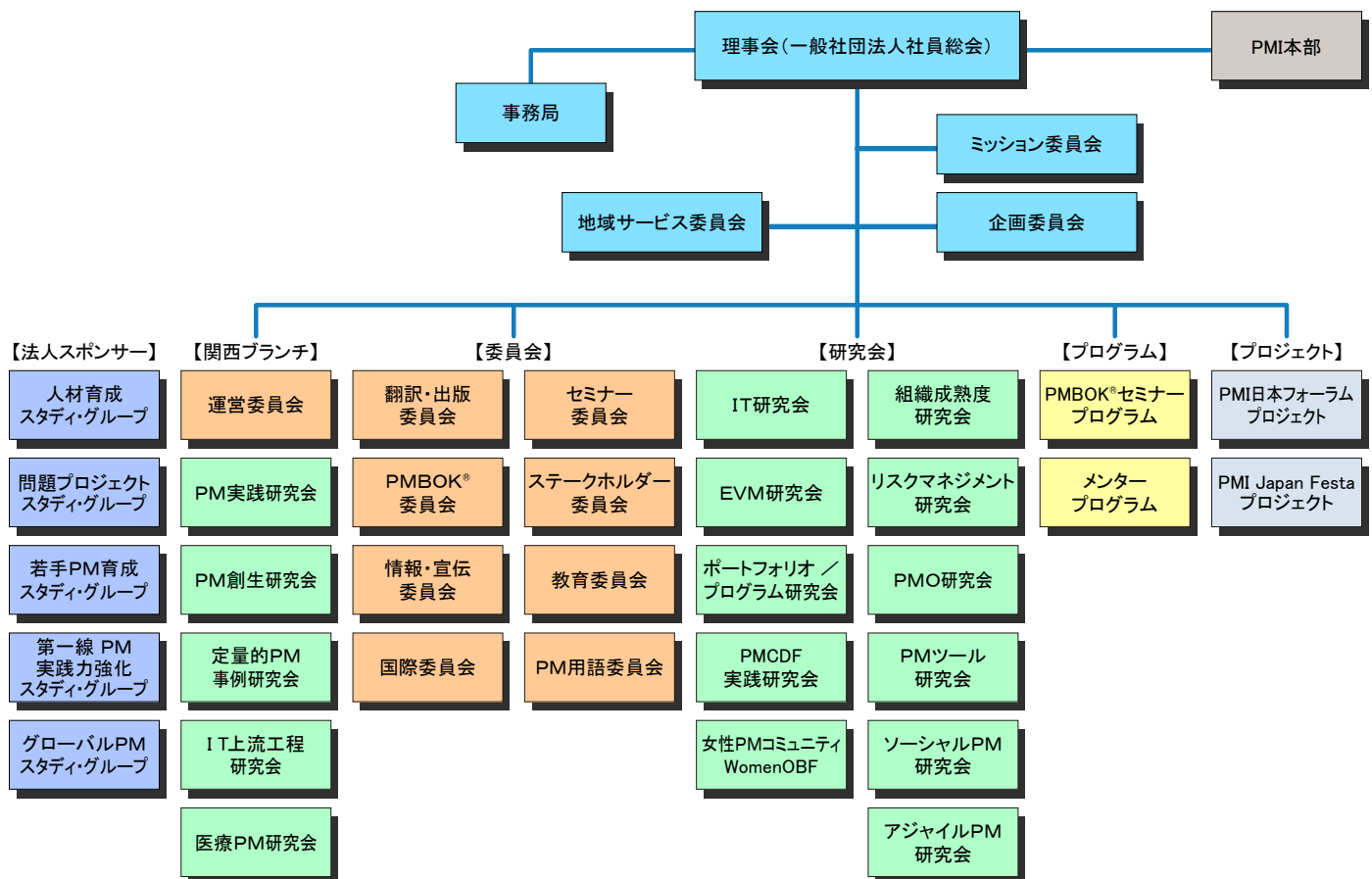
- 日時：2015年7月11日(土)・12日(日)
- 場所：学術総合センター (東京・神保町)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2015年3月現在)



■ 理事一覧 (2015年3月現在)

会長	: 奥 澤 薫 (日本電気株式会社)
副会長	: 片 江 有 利 (株式会社プロシード)
理事 (ミッション担当)	: 端 山 毅 (株式会社NTT データ)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 武 上 弥 尋 (アイエス情報システム株式会社)
理事 (研究担当)	: 当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)
理事 (教育担当)	: 本 間 利 久 (北海道大学)
理事 (教育担当)	: 中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)
理事 (渉外担当)	: 杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理事 (社会貢献担当)	: 高 橋 正 憲 (PMプロ有限会社)

理事 (社会貢献担当)	: 麻生 重樹 (日本電気株式会社)
理事 (広報・宣伝担当)	: 竹内 正興 (一般財団法人国際開発センター)
理事 (財政担当)	: 三嶋 良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (地域担当)	: 神庭 弘年 (神庭PM研究所)
理事 (地域担当)	: 木下 雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 福本 伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 除村 健俊 (株式会社リコー)
監事	: 渡辺 善子

■最新の会員・資格者情報 (2015年1月末現在)

会員数		資格保有者数						
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
460,853人	3,187人	648,485人	31,528人	4人	4人	4人	14人	62人

■行政スポンサー (2015年3月現在)

- ・三重県 桑名市

■法人スポンサー 一覧 (105社、順不同、2015年3月現在)

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ヒューレット・パッカー株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・コンピューターサイエンス株式会社
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・TDC ソフトエンジニアリング株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- ・日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- ・株式会社アイテック
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- ・株式会社日立インフォメーションアカデミー

- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジー株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NEC ネットエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップランダムアンドアイ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社エンラプト
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- 株式会社オーグス総研
- 損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (28教育機関、順不同、2015年3月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 今号のトップは、ISO（国際標準化機構）PC236の委員として参加されている日本支部会員 田島彰二氏からの報告第四弾として、この1年間の最新動向についてポートフォリオマネジメントを中心に解説いただきました。
- 7月11日(土)・12日(日)に予定している「PMI日本フォーラム2015」の準備進捗状況をご報告しました。各界のリーダーの方々12人の顔ぶれをご紹介します。
- 2015年度の更新会員・新規入会会員さまへのキャンペーン内容をご紹介します。支部特製の「ピンバッジ」と「ネックストラップ」を贈呈中です。
- 一昨年からは試行開始し現在13コンテンツが揃った「オンライン・セミナー」について、ご紹介しました。
- 「法人スポンサー紹介」は、Innova Solutions, Inc.さま。個人レベルを対象としたアクションラーニングから、チーム改革ワークショップ、全社レベルでの変革リーダーシップ研修を通じて企業をサポートしておいでです。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

今年もPMI日本支部をどうぞよろしくお願ひ致します。

PMI日本支部ニュースレター Vol.62 2015年3月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
E-mail：info@pmi-japan.org
ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)